

2018 年度精密工学会秋季大会関連事業 「新技術講演会—産学・産産連携への集い」実施報告

精密工学会では 2013 年度より産学連携と産産連携を支援する講演会を始めました。これは企業の皆さまに精密工学分野の研究機関との共同研究や関連企業とのビジネス交流の場、技術サロンを提供させていただくもので、本年度の秋季大会初日の 9 月 5 日に北海道 函館アリーナで開催しました。

第 1 部では、ニューテクノロジーフォーラム「AI で進化するものづくり」を開催、第 2 部では地元企業による技術紹介「元気な道産子ものづくり」を開催、第 3 部では、先端企業・技術紹介セッションとして「日本のものづくりの底力」を開催しました。夜の部では、ものづくり関連企業との「技術交流会（懇親会）」を開催し、大学・公設研究機関の研究者および参加企業の皆さまとの交流を行いました。台風にて交通機関が乱れていたにもかかわらず、講演会には 58 名、技術交流会には 51 名の皆さまにご参加いただきました。

1. 第 1 部 ニューテクノロジーフォーラム「AI で進化するものづくり」

第 4 次産業革命と呼ばれる大きな時代変革の中で、製造業におけるものづくりが飛躍的な進歩を遂げています。AI や IoT をどのように現場で活用すればよいか、その具体的な活用例など多くの皆さまの参考となったものと思います。まず精密工学会 賛助会員の会 菖蒲田会長（マツダ(株)）のご挨拶に引き続き、基調講演として「スマートファクトリー最前線！～IoT で進化するものづくり現場」について、(株)フジクラの柏木正浩氏により「Deep Learning 技術によるものづくり革新」と題してご講演いただきました。人手に頼らざるを得ないプロセスにおいても、Deep Learning 技術を用いることで高品質化、自動化が可能となり、それらの具体的な工程への活用方法などをご紹介いただきました。



図 1 講演会の様子

2. 第 2 部 地元企業による技術紹介「元気な道産子ものづくり」

産学・産産連携の強化と賛助会員相互の情報交換の場として交流を深める目的で、今回は地元北海道でご活躍の企業 2 社から、元気のある技術をご紹介いただきました。

- ・(株)メデックの坂上訓一氏より「国内最速挿抜機の開発製作について」
- ・(株)AIS 北海道の上出英輔氏より「三次元形状計測、材料物性測定、CAD モデリング、CAE を連携した現物融合デジタルエンジニアリングの展開」

3. 第 3 部 先端企業・技術紹介セッション「日本のものづくりの底力」

産学・産産連携の強化と賛助会員相互の情報交換の場として交流を深める目的で、日本のものづくりを支えている中小・中堅企業を支援するために創設された「精密工学会ものづくり賞」を受賞された企業に会社・製品・技術等の紹介を行っていただきました。それに先立ち、賛助会員の会 運営委員会 遠藤委員長（精密工学会副会長、大阪大学）より「精密工学会ものづくり賞」についてのご紹介（本年度 12 社）とご挨拶をいただきました。

【ものづくり賞 最優秀賞】

(株)山本金属製作所 山本 憲吾氏

【ものづくり賞 優秀賞】

(株)クリエイティブコーティングス 坂本 仁志氏

(株)ナガセインテグレックス 板津 武志氏

【ものづくり賞】

(株)クリスタル光学 桐野 宙治氏

(株)小坂研究所 江原 史和氏

タイユ(株) 植野 員充氏

(株)Piezo Sonic 多田 興平氏

(株)光合金製作所 乾 雅宏氏

RAMPF Group Japan(株) 安永 昌史氏

(株)ワークス 三重野計滋氏



図 2 技術交流会の様子

住友重機械イオンテクノロジー(株)
(台風の影響で欠席)
林精器製造(株)
(都合により欠席)

4. 技術交流会

講演会終了後、夜の部「技術交流会（懇親会）」を多目

的会議室 B に移動して開催しました。参加者は 51 名でした。菖蒲田会長よりご挨拶をいただき、遠藤委員長の乾杯の発声のあと、情報交流の場（技術サロン）として、約 1 時間半にわたり多くの参加者の歓談が尽きない会となりました。中締めは秋季大会実行委員会 金子委員長に行ってください、盛会のうちに終了することができました。